

## 彫刻専攻 3 ポリシー

### ディプロマ・ポリシー

#### ■ 人材育成目標

彫刻専攻では、多様化する現代社会での立体表現に重点を置きながら、広範な美術教育を行うことで、将来の芸術家、研究者、芸術教育の専門家等の人材の育成を目標にしています。

#### ■ 卒業までに身につけるべき資質・能力

- ・新しい表現を生み出す創造力
- ・社会との関わりについての多面的な理解力

#### ■ 学位の授与方針と評価方法

最終年次の「卒業制作」を含めた所定の単位を修得した学生を卒業と認め、学位を与えます。

- ・所定の在学期間の確認、必要単位修得の確認
- ・卒業制作の評価 …… 彫刻専攻全教員によって様々な視点から採点し、議論の上、総合的に評価を決定します。

### カリキュラム・ポリシー

#### ■ 教育課程の編成方針

学生の個性と社会性の両立を目指し、また新しい表現を生み出す創造力を育むようカリキュラムを編成しています。

#### ■ 具体的なカリキュラム構成と特徴

1・2 年次は、実習を通じた実技および理論の基礎教育を、3・4 年次にはその応用教育を徹底した個別指導により行います。

- ・1 年次に塑造・金属・木彫・樹脂、2 年次には塑造・造形・石彫・テラコッタ・材料研究（乾漆）の授業を行います。
- ・3 年次には、各教員のゼミ毎に授業を行い、より広範な表現に対応できる力を養い、4 年次には、これまでの学習や研究の成果を卒業制作に結実できるよう指導します。
- ・国内外で活躍している作家・評論家によるレクチャーを行い、新しい表現を生み出す創造力と社会との関わりを多面的に理解するための力を育みます。

#### ■ 教育課程の評価方針・方法

- ・課題の指導は、専門性の高い非常勤講師も含めた複数の教員が指導にあたり、評価も複数の教員が総合的に行い、客観性を高めています。
- ・その他の授業科目については、各科目の担当教員がシラバスに定めた方法により評価します。

### アドミッション・ポリシー

#### ■ 求める人物像

- ・広範な立体表現に深い関心を持ち、芸術家を志す人
- ・創造のよろこびを実感し、ねばり強く取り組める人
- ・多様な価値観に目を向け、様々な文化芸術に興味を持つ人
- ・独自の発想力と表現力を身につけ、社会で活かしていきたい人

#### ■ 入学前に身につけてほしい学習成果

- ・基礎的な描写力・造形力
- ・豊かな想像力

#### ■ 入学試験の基本的な方針・考え方

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づき、基礎的な想像力・技術力を判定する試験と、大学における勉学に対

する意欲をはかる面接を行います。

【一般選抜】

- ・大学入学共通テストによる学力試験および素描、塑造の実技試験の合算により合否を判定します。
- ・合否ラインで総合得点が並んだ場合に、調査書・活動報告および志願理由書を活用します。

【総合型選抜】

- ・自己アピール資料審査と小論文、面接試験により合否を判定します。